

3月16日地震発生後の 3号機原子炉格納容器の水位の状況について

2022年6月20日

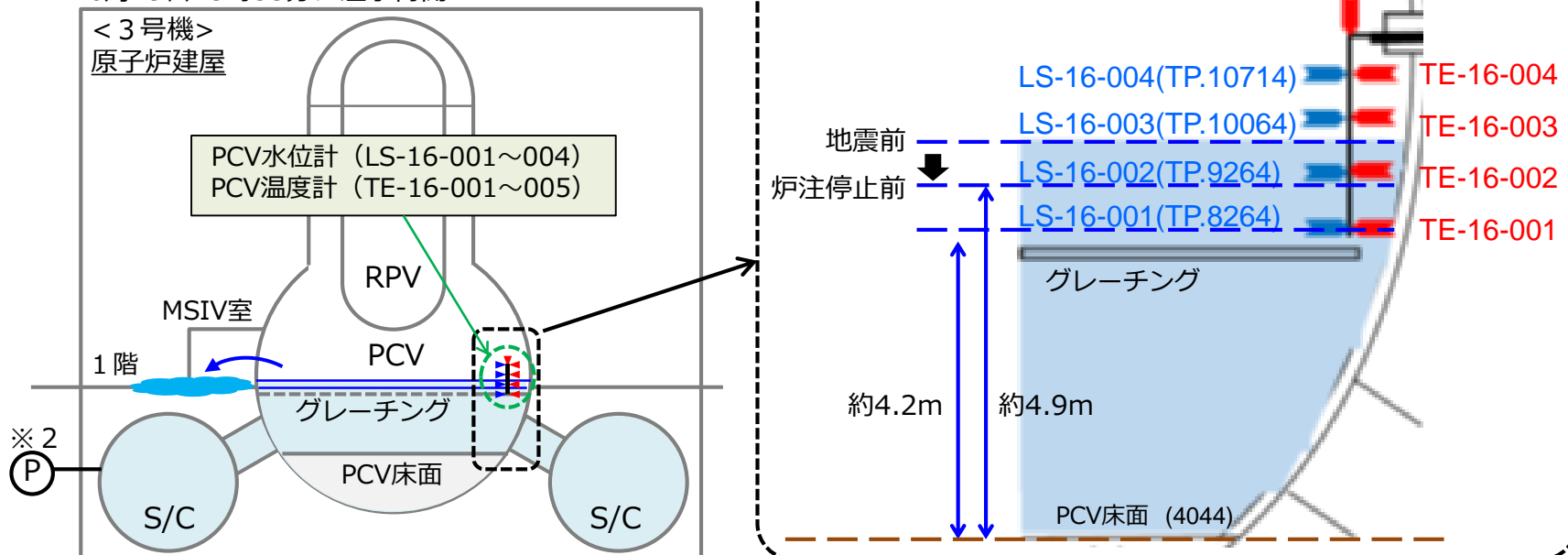


東京電力ホールディングス株式会社

3号機の原子炉格納容器の水位の状況（概要）

- 3月16日に発生した地震以降、3号機のPCV水位は緩やかな低下が継続しており、6月1日付近に温度計TE-16-002/水位計LS-16-002の設置高さを下回ったと考えている。
- また、6月8日～9日に実施したMSIV室内の調査において、従前確認された水の滴下や床面の水たまりがないことを確認しており、この時点でPCV水位が当該漏えい箇所を下回って低下していること、また、これより下にPCVからの漏えい箇所があることなどが推定される。
- PCV水位の緩やかな低下が継続しているものの、これまで、RPV底部・PCV内温度、PCVガス管理設備ダストモニタなどに有意な変動は確認されておらず、環境への影響はない。
- また、PCV水位の低下傾向は緩やかであり、必要に応じて原子炉注水量を増加させることによってPCV水位を調整することは可能と評価している。
- 現在、原子炉注水停止試験を実施中※¹であり、PCV水位の低下傾向等の影響を確認しているところ。

※1 6月14日10時30分に3号機原子炉注水を停止、
6月19日15時35分に注水再開

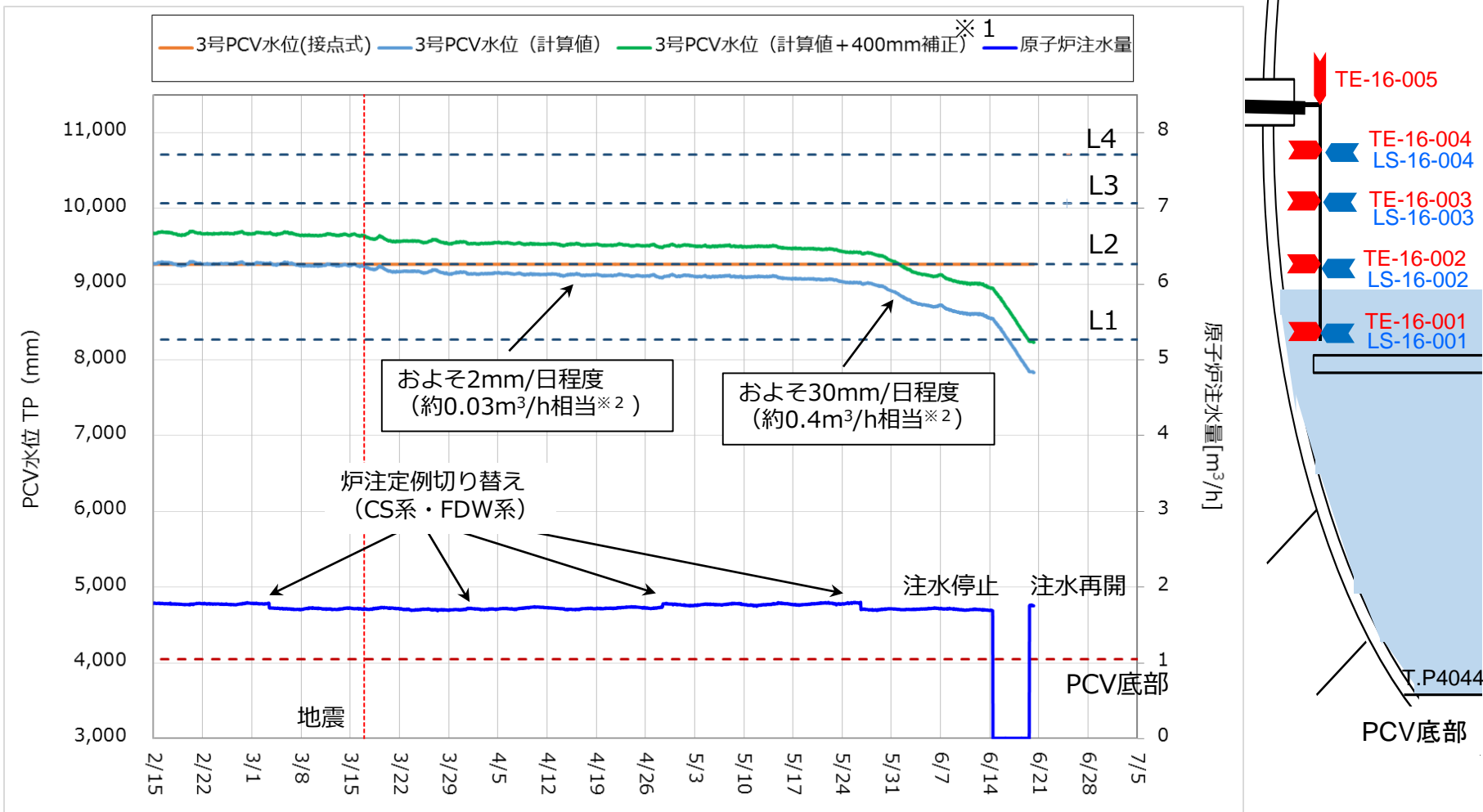


(RPV=原子炉圧力容器、PCV=原子炉格納容器、S/C=圧力抑制室、MSIV=主蒸気隔離弁)

※2 3号機ではS/C圧力を用いた水頭圧換算でPCV水位（計算値）を評価している

3号機PCV計算水位の傾向

- 3月16日の地震発生以降、3号機のPCV水位は緩やかな低下傾向が継続している状況。5月下旬頃からPCV水位低下の傾きが大きくなった傾向がある。

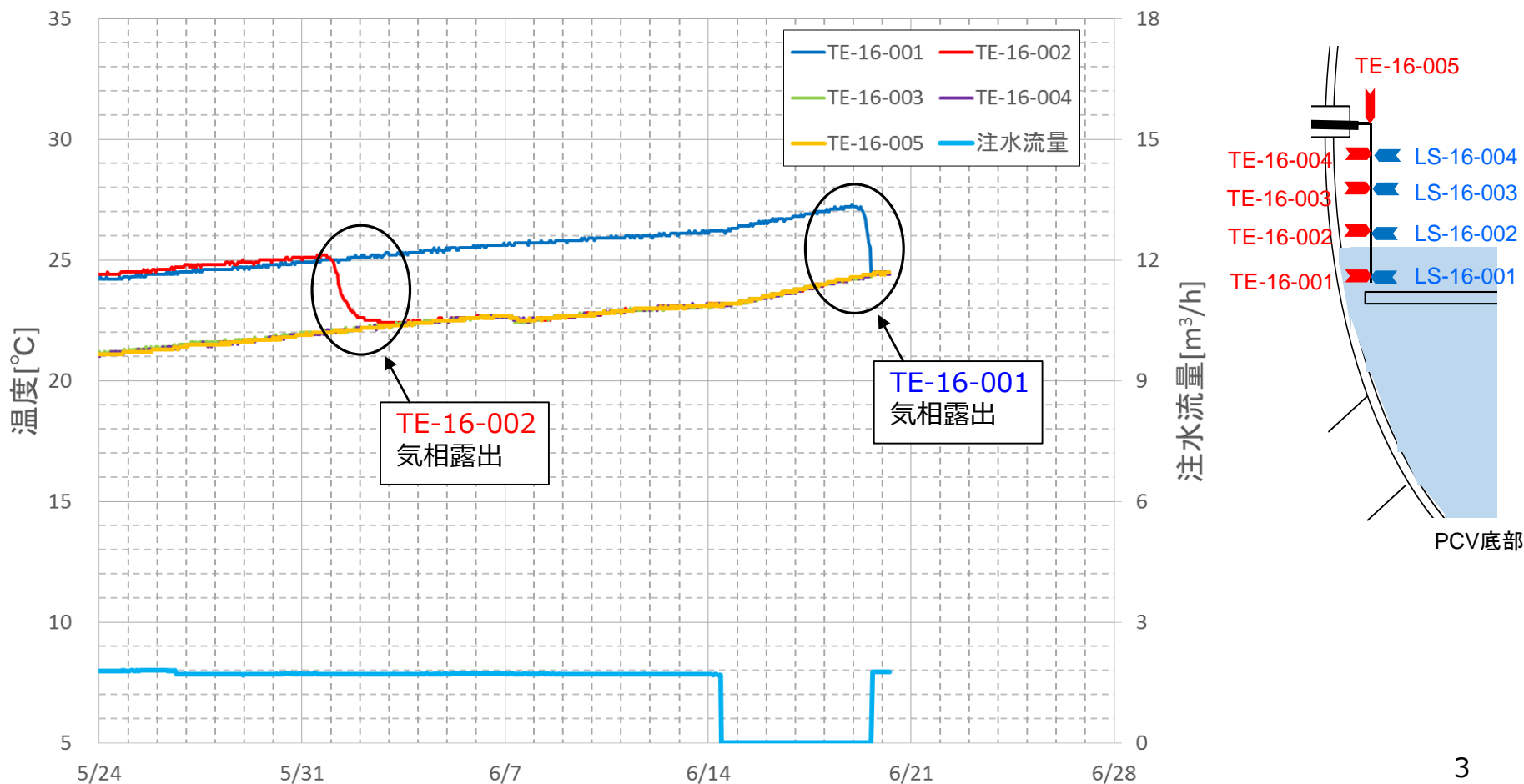


※1 これまでの実績からPCV水位(計算値)は40cm程度低めに評価している傾向がある

※2 PCV水位の低下速度とPCV平面積(PCV内機器等は未考慮)から水位低下量を概算評価

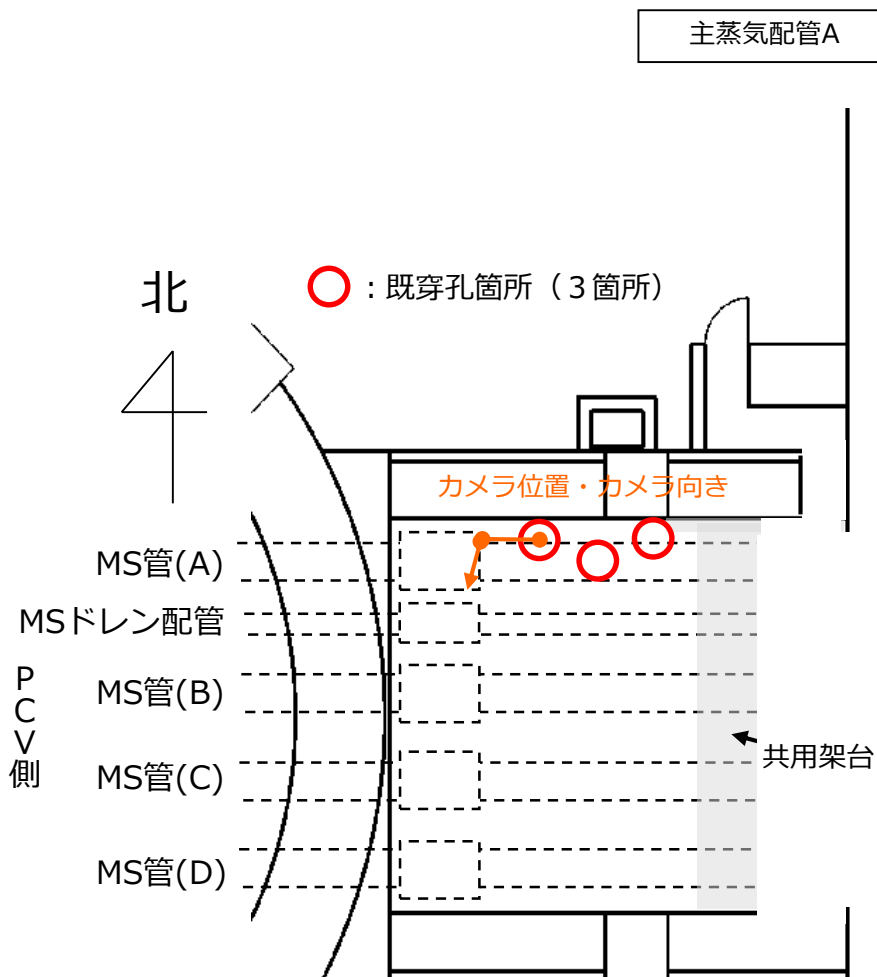
(参考) 3号機PCV新設温度計推移

- 6月1日付近に温度計TE-16-002の指示がTE-16-003~005と同等の値に低下していることから、PCV水位の低下により、温度計TE-16-002が気相露出したものと考えている。(従来より液相部に比べ、気相部はやや温度が低い傾向がある。)
- 原子炉注水停止試験を開始後、6月19日に温度計TE-16-001の指示も同様に低下しており、気相露出したものと考えている。



(参考) 3号機MSIV室内の調査結果

<調査日：2022年6月8日～9日>



※ 2021年4月の調査において、MSIV室内の水たまりやMS管(A)付近からの漏水らしき状況が確認されており、本年4月の調査準備の作業中においても、状況が変わっていないことを確認していた。

MSIV室天井部追加穿孔箇所
(3箇所：約Φ120mm (最大) , 深さ約1.5m)

カメラ

カメラ 照明 グレーチングの吊上げ※

空調機械室

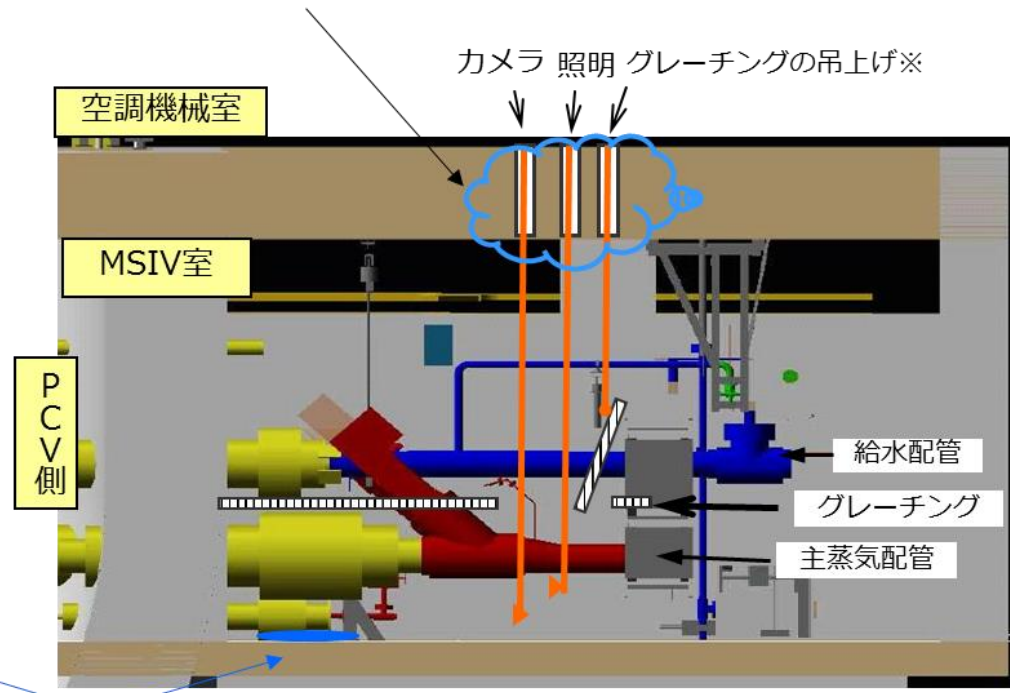
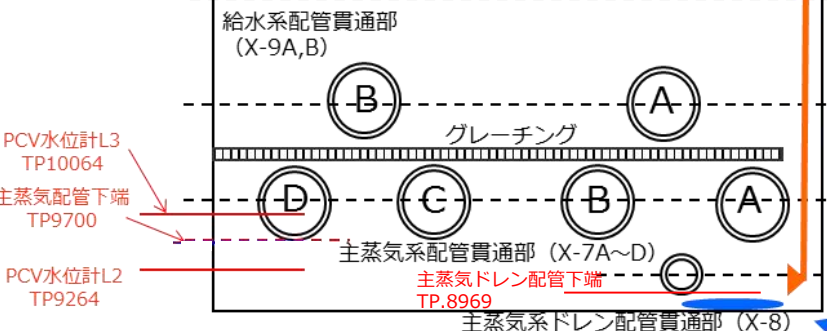
MSIV室

PCV側

給水配管

グレーチング

主蒸気配管



MSIV室からPCV側を見た図

原子炉建屋1階MSIV室 (断面)